

# 近畿国立病院薬剤師会

会誌

Vol.79  
2024年8月

## 目 次

提言.....	2
	敦賀医療センター 田路 章博
薬剤部紹介.....	3
	南京都病院 桶本 幸
スズケン阪神物流センター見学会に参加して.....	5
	兵庫中央病院 壺阪 直子
スズケン阪神物流センター見学報告.....	6
	近畿中央呼吸器センター 坂井 美冴
第 45 回日本病院薬剤師会近畿学術大会 参加報告.....	8
	大阪南医療センター 内田 彩花
第 40 回日本 TDM 学会・学術大会 参加報告.....	9
	国立循環器病研究センター 新名主 カオリ
第 17 回日本緩和医療薬学会年会 参加報告.....	10
	大阪医療センター 吉金 鮎美
日本糖尿病療養指導士の資格を得たきっかけと心境.....	11
	兵庫中央病院 松尾 世為子
趣味のページ.....	13
	大阪医療センター 檜本 佳代
編集後記.....	15

## 提言

～人生 Que sera sera(ケセラセラ)～

敦賀医療センター 田路 章博

敦賀医療センターに赴任して早くも1年が経過しました。私の入局以来、初めての福井県上陸、初めての薬剤部長、初めての単身赴任といった初物尽くしで、期待と不安で胸が一杯でした。そんな中、今では敦賀での生活にも慣れ、福井県民の温かさや、豊かな自然と伝統文化を大切に受け継いでいる福井県の魅力に日々感動しております。

福井県敦賀市は古くから大陸との玄関口として栄えてきた港町で、近代港湾・鉄道にまつわるレトロ浪漫スポットが多数あります。四季折々の催しも盛んです。江戸時代から北前船の中継地として栄え、おぼろ昆布や敦賀ふぐ、敦賀真鯛などのブランド魚、東浦みかんや赤かんばんという赤かぶも名産です。歴史・自然・文化・食・伝統工芸などが魅力ばかりか、2024年3月には福井県民50年来の願いであった北陸新幹線が開通し、開業時のお祭り騒ぎのまま街全体がとても活気付いています。

今回の提言のテーマ「人生ケセラセラ」とは、私のモットーです。ケセラセラとは一般に「なるようになる」、「物事は勝手にうまい具合に進むもの」という意味合い・含蓄のある言い回しと解釈されます。最近では、Mrs. GREEN APPLEが歌うドラマの主題歌にも使われていました。

「自分の人生は自分で切り開くもの」と強く思っていると自分の行動は全て「自分で決めなければいけない」と思いがちです。その姿勢は非常に大切ですが、時として苦しくなることがあります。時には流れに身を任せてみることも人生では大切なのではないのでしょうか。私は敦賀への赴任をはじめ、病院薬剤師人生において、指示された仕事を真摯に受け入れ、ただひたすらに取り組むことを心掛けています。上司の命令を「何もかも受け入れろ」とは言いませんが、背中を押す手を振り払い、せっかくのチャンスを逃していることは多いと思います。少なくとも何もせず現状維持でいるのとは別の未来が待っている筈です。

多くの時間をかけて流れに逆らいながら進んでも、素直に流されても、行き着く結果は同じということも案外多いものです。さらに、自分を取り巻く環境はいつまでも同じではありません。大きな流れに身を任せながら目の前のことに懸命に取り組むことで、新しい流れが生まれ、良い方向に変えられるかもしれません。

時に、流れに逆らって強い意志を貫こうと頑張る人よりも、上手に身を任せながら対応できる人のほうが楽しそうに見えることがあります。自分の運命を受け入れ、その上で最善の方法を選択できているからなのだと思います。頑張っただうにかしようとする強い意志も素敵です。しかし、「なるようになる」と割り切って流れに身を任せている様も同じように素敵だと思いませんか？



## 【病院紹介】

南京都病院は、京都府の南部、城陽市にあります。病院から西の方角に目をやれば、木津川があり、その奥には甘南備山がそびえ、天気良ければ南の方角に生駒山を望むことが出来る豊かな自然に囲まれた場所にあります。何より梅、桜、つつじ、藤と時期にあつた花を楽しむことが出来ます。病院西側には、病院所在地である城陽市の銘木・古木に認定された「エドヒガンさくら」があります。エドヒガンさくらの花言葉は心の平安です。風通しが良く、職員にも思いやりのある病院組織であることが、患者さんへのホスピタリティーにつながっているという病院の伝統を表現するのに適した木だと思います。



当院は、結核はもとより、非結核性呼吸器疾患（肺がん、呼吸不全、喘息、慢性気管支炎等）、重症心身障害、小児慢性疾患、神経・筋疾患、長寿医療、慢性肝疾患、脳卒中リハビリ並びに一般疾患の診断と治療を主体とした診療機能を持ち、専門性を生かした高度医療の充実を図っています。中心診療科として呼吸器科、脳神経内科、小児科があります。呼吸器科の専門外来として禁煙外来・睡眠時無呼吸症候群外来・抗菌薬外来・アスベスト外来があります。脳神経内科ではパーキンソン病や認知症・神経難病・神経変性疾患を中心に、小児科においてはアレルギーや小児神経発達・一般予防接種等の専門外来が設置され、特色のある診療が行われています。また、小児慢性疾患、重度心身障害児の療育については、京都府立城陽支援学校と協働し、子供の心と体の両面からサポートする体制が構築されています。更に、通所事業所「しらうめ」の運用を通じて、神経難病・重症心身障害、在宅酸素・慢性呼吸不全などで在宅療養されている患者さんの短期入所受け入れを行うなど、地域の障害者支援の中心的役割を担っています。

病床数は300床で一般病床160床（急性期40床/慢性期120床）と重心病棟の120床と結核病床20床です。診療科目は呼吸器センター（内科・外科）、小児科、脳神経内科、循環器内科、外科・消化器科、整形外科、放射線科、リハビリテーション科の9診療科です。



## 【薬剤部紹介】

現在薬剤部は、薬剤部長、副薬剤部長、主任 2 名（調剤主任、薬務主任）、薬剤師 3 名の計 7 名で構成されています。

現在呼吸器科と脳神経内科の患者を対象に病棟活動を行っております。入院時持参薬確認は 2022 年より全入院患者に対応できるようになりました。薬薬連携の一環として、2022 年から結核患者に対し退院時薬剤情報連携加算の取得を開始し、現在は呼吸器科入院患者を対象を広げ行っております。同年 11 月から入退院支援センターでの活動を開始し持参薬をはじめ術前・検査前の中止薬の有無及びアレルギー歴・副作用歴の確認を行っております。急性期病棟においては 2024 年 4 月より病棟常駐化を開始しました。同時に外来での吸入指導を開始し、指導内容をかかりつけ薬局へ提供しています。チーム医療においては、ICT/AST、NST、褥瘡、転倒転落予防、呼吸器・リハビリケアカンファレンスに参画し、薬剤師としていかに貢献できるか日々模索しております。PBPM としては、外来疑義照会の代行や入院処方変更（内服・外用のみ）時の代行入力を行っております。治験業務においては、呼吸器科・脳神経内科・小児科を対象とした課題に取り組んでおります。

当院は、重度心身障害者（児）や神経難病・神経変性疾患・パーキンソン病患者さんが多く入院しているため調剤の 1/3 は散薬秤量であります。そのため長年散薬自動ロボットの導入を希望しておりましたが、念願かなって 2024 年 6 月より稼働開始しました。そして近々錠剤自動分包機の部分的なシステム更新を予定しています。今よりも多くの時間を外来活動及び病棟活動に注力するために、可能な範囲での更なる機械化を実施していく予定です。薬剤部全員で少しでも患者さんのお役に立てるようにこれからも努力してまいります。（文責：桶本 幸）



## スズケン阪神物流センター見学会に参加して

兵庫中央病院 壺阪 直子

2024年6月8日(土)に開催されたスズケン阪神物流センターの見学会に参加したので報告させていただきます。もちろん私が所属している兵庫中央病院もお世話になっており病院からはとても近いと聞いていましたが、今回の見学まで場所も知らず、よい機会だと思い参加しました。最寄りの神鉄道場駅からの徒歩経路では、整備された住宅街の坂道をひたすらのぼり、とても良い運動になりました！

スズケングループは医薬品メーカーから医薬品卸までの物流を担う「メーカー物流」と、医薬品卸から医療機関・保険薬局までの物流を担う「卸物流」の2つの機能をもっています。その中でも阪神物流センターでは2府4県をカバーしており、メーカーから納品された医薬品を各支店に運ぶ中核的役割を果たしています。

各支店に運ぶための薬の取り揃えは流通頻度のランク別にエリアが分かれています。流通の多い医薬品のエリアではランプが光った配置棚のところに行き、デジタル表示された個数をとり、流通の少ないものは手で集めていきます。

今回一番気になったシステムは、キュービックスという保冷庫です。温度管理を要する医薬品については購入した医薬品の個装箱にRFIDタグが貼付されます。専用の保冷庫に格納されて常時遠隔監視することで、在庫や入出庫状況をリアルタイムに検知できるシステムです。医薬品の在庫状況は全てポータルサイト上で確認され、消費された分の医薬品は自動発注されます。また在庫リフレッシュサービスといって、不用品や未使用品の在庫の入替をしてもらえるサービスもあるそうです。当院にはまだ導入されていませんが、最近では脳神経内科に関わる高額の冷所保管薬の扱いも増えてきています。使用患者数が多くはないものの、体重で投与量が投与当日に変動する薬剤もあるため、使用患者数に対してある程度の在庫を抱えないといけない現状にあります。廃棄が高額になるような場合にはぜひ検討したいシステムでした。

私は現在薬務を担当しているのですが、メーカーから始まり患者さんまでの医薬品供給過程についての理解が深まったと思います。卸によって仕組みは異なっているかと思いますが、また他の卸売業者でも見学会があればぜひ参加したいと思います。



## スズケン阪神物流センター見学報告

近畿中央呼吸器センター 坂井 美冴

2024年6月8日(土)にスズケン阪神物流センターの見学に参加しましたので、ご報告申し上げます。今後同様の催事に参加をご検討される先生方のご参考になれば幸いです。

### 見学の流れ

- **集合場所と時間:** 13時50分までにスズケン阪神物流センターに現地集合・受付。
  - **プログラム開始:** 14時00分からスタート。
1. **センター概要の説明(30分)**
    - スズケン阪神物流センターの役割や施設の基本情報をスライドとビデオを元にご担当者様から説明いただきました。
    - 配送エリアや人員構成についても詳しく説明されました。
  2. **庫内見学(1時間)**
    - スズケンのスタッフの方々に誘導され、各フロアについて解説いただきながら3階分の設備全てを見学させていただきました。
      - **1階の輸液保管庫、入出荷場:** 天井までぶち抜き巨大な倉庫を見学。生食やビーフリードの箱がぎっしり詰められている様子は圧巻でした。冷所薬品が室外気に触れることなく入庫できるように、トラックと直接ドッキングできるコンテナ室があったのも印象的でした。
      - **2階の常温管理薬剤保管庫:** 一般薬の保管方法やピッキングシステムを見学。出荷頻度によってランク分け(高頻度はA、低頻度はC)された薬品がエリアを区切って保管されており、各エリアの棚の特徴やピッキング作業の違いを見学しました。自分がよく目にする薬剤がCランクだったり、逆にあまり当院では処方されることのない薬剤がAランクだったりと驚きがありました。
      - **3階の特殊薬品保管庫:** 冷所薬を保管する巨大な冷蔵室内を見学。また、静脈認証システムで厳重に管理された毒薬・劇薬、向精神薬および高額品の保管庫も中まで入らせていただきました。数億円相当の薬品棚も見学させていただき、興味津々に見学しました。
  3. **キュービックスの紹介(15分)**
    - 温度管理システムの概要と24時間遠隔監視の仕組みについて紹介。特に病院の人員減少に伴う品質管理の問題や薬価改定に伴う資産の減少対策として有用であること、また期限切迫品を含む在庫管理のための労力が大幅に削減できるシステムであることを強調されていました。

#### 4. 質疑応答(15分)

- 参加者からの質問に対し、ご担当の方から回答いただきました。主にキュービックス関連の質問が多く出ていました。

#### 感想とおすすめポイント

スズケン阪神物流センターは、最新の設備や機械化といった側面よりも、むしろ訓練された多数のスタッフとその業務を補うバーコードによる認証システム、効率的なピッキングのためのシステムが整備されている点が印象的でした。1階の輸液保管庫の壮観さや、特殊薬品の厳重な管理体制もさることながら、スタッフ管理・訓練、労働環境改善のための工夫は見学の価値があったと感じます。

次回参加を検討される方は、コンテナと作業者の動線を考えて見学することで、物流センターの全体像を把握しやすくなるのではないのでしょうか。当日は写真撮影も勤務スタッフ・各端末の画面以外については許可いただきましたので、数枚本記事に添えさせていただきます。雰囲気を掴む一助になれば幸いです。

以上で報告を終わります。最後に、本企画を主催していただいた薬剤師会の皆様、そして当日見学を許可していただいたスズケン阪神物流センターのスタッフの皆様に深く感謝申し上げます。皆様の益々のご清栄を心より祈念いたします。

該当する薬剤棚のライトが光ります



薬品の名札の横にランプと文字盤があり、必要数も表示されます。

▲A ランクのピッキング棚の様子

出荷頻度が高いので充填もバラの箱ではなくケースごと行われます。ピッキングの対象になった薬剤は棚の上部のライトと薬品名の横のランプが点灯します。



▲C ランクエリアのピッキング後バーコード認証ブース



▲入荷時仮保冷コンテナの温度モニター

当日は歓迎のコメントも表示してくださっていました。

## 第 45 回日本病院薬剤師会近畿学術大会 参加報告

大阪南医療センター 内田 彩花

2024 年 1 月 27 日、28 日に和歌山城ホールおよび和歌山県立医科大学で第 45 回日本病院薬剤師会近畿学術大会が開催されました。私は、このたび「抗菌薬適正使用支援と AWaRe 分類による静注抗菌薬使用状況の調査」というテーマでポスター発表いたしましたので報告します。

2019 年 6 月 WHO は、「抗菌薬適正使用を判断するための新たな指標」として AWaRe 分類を発表し、耐性化の懸念が少なく、積極的に用いるべき”Access”に分類される薬剤の使用割合を 60%以上とすることを目標に掲げています。当院では抗菌薬適正使用支援チーム (AST)が適正使用の推進に向け、院内ラウンドの実施や職員に向けた教育活動を行ってきました。この活動を評価するために調査を行ったところ、”Access”に分類される薬剤の使用割合が経年的に上昇しており、適正使用が推進できたことがわかりました。これらをまとめ発表いたしました。

発表の場では、他医療機関の薬剤師のみでなく、AMR 臨床リファレンスセンターといった行政に携わる薬剤師とも意見交換を行うことができました。様々な薬剤師と交流を行う中で、自身になかった視点の業務や評価を知ることができ、今後の活動に活かしていきたいと思いました。入職後初めての学会発表でしたが、非常に有意義な学会となりました。私自身も AST の一員として今回の経験を踏まえ、院内の抗菌薬適正使用支援に益々貢献していきたいと思えます。

最後になりましたが、本発表を行うにあたり、多くの先生方にご指導ご鞭撻を頂きました。この場をお借りして、先生方に厚く御礼申し上げます。

## 第 40 回日本 TDM 学会・学術大会 参加報告

国立循環器病研究センター 新名主 カオリ

梅雨真ただ中の蒸し暑い大阪を飛び立ち、新緑が美しい爽やかな晴天の北海道へ降り立った。2024 年 7 月 14～15 日に北海道大学にて開催された第 40 回日本 TDM 学会・学術大会へ参加し、ポスター発表を行った。コロナ禍以降 5 年ぶりの遠征、人生 2 度目の北海道に気分も高まる。

当薬剤部では高速液体クロマトグラフィー質量分析装置(LC-MS/MS)を用いて TDM を目的とした抗不整脈薬の血中濃度測定を行っている。私は測定業務に従事しており、今回の学会では「分析における精度管理」に着目して情報収集を行った。

皆さんはカルテの検査値が“測定誤差”を含むことを考えたことがありますか？同じ試料でも分析法や分析施設によって実測値にズレがあることをご存知でしょうか？バイアスのかかった検査値をもとに治療が進むことの怖さを考えたことがありますか？「血中薬物濃度測定における精度管理」に関するシンポジウム開始の際に座長より投げかけられた言葉である。2018 年 12 月施行の改正医療法にて、検体検査の精度の確保が求められると共に検体検査項目として「血中薬物濃度検査」が明記されたことにより、TDM 分野でも精度管理に対する理解と推進が求められている。

今回我々は、「抗不整脈薬血中濃度測定における精度管理の導入と有用性」について検討した結果を発表した。導入前後で比較すると、安定した分析の維持に精度管理の有用性は明らかであり、参加者からは精度管理の取り組みに関する質問やコメントだけでなく、LC-MS/MS 分析法に関して、また抗不整脈薬の TDM の考え方などに対しても多数の質問を頂戴し活発な意見交換の場となった。血中濃度測定における精度管理の充実のため今後も検討を続けていきたい。

学会 2 日目は「分析装置を用いて実際にポリコナゾールの血中濃度を測定してみよう」という企業主催のハンズオンセミナーに参加した。装置のメンテナンスや試料調製が一切不要、簡単な前処理のみで初心者でも簡便に分析可能な点は有用性が高いと感じた。まだ分析対象薬物は限定されるが、今後このシステムが普及することで TDM がもっと気軽に身近なものになれば良いと期待される。また、日々の分析における問題点について企業の専門家と共有することができ、いずれ共同研究をできればといった話も膨らみ大変意義深い時間となった。

「抗不整脈薬の TDM といえば国循ですよ。これからも国循から益々発信していきましょう。」との言葉に背中を押され、心新たに精進しようと力をもらった 2 日間であった。



## 第17回日本緩和医療薬学会年会 参加報告

大阪医療センター 吉金 鮎美

第17回日本緩和医療薬学会年会が2024年5月24日～26日に東京都の文京シビックセンター、ベルサール飯田橋駅前の2会場にて開催されました。開催方式はオンデマンド配信と現地開催のハイブリット型で行われました。会場が東京ドーム近くという立地の良さもあり、連日参加者で溢れかえり、立ち見が出るほど盛況な会でした。

さて、私は「難治性疼痛に対し、メサドンとヒドロモルフォン併用で良好な鎮痛効果が得られた1例」についてポスター発表をさせていただきました。メサドンはオピオイド鎮痛薬に特有の有害事象(便秘、悪心、嘔吐、眠気等)に加えて不整脈や呼吸抑制の副作用を持ち、半減期が長くその個人差も大きいといった特徴がある薬剤です。副作用予防のため、適正使用ガイドでは先行オピオイドを完全に中止してメサドンを導入する方法(SAG法)が記載されていますが、切り替え時の疼痛増悪が問題となっ



ています。今回、先行研究をもとにヒドロモルフォンにメサドンを上乗せする方法(Add-on法)を用いた1症例について発表しました。発表では沢山の質問をいただき、工夫した点を伝えられたり、勉強不足に気づかされたり、とても有意義な時間を過ごしました。現地開催でこそ得られる醍醐味だと思います。発表に至った経緯は、遠方で開催されるなら、発表してみようと安易な動機でしたが、発表を通して、薬剤の知識、ポスターの作成方法、意見交換から広がった人脈など得られるものがとても多かったと感じています。動機はなんであれ、ひとつの発表を終えるときには多くのことを得られると思います。

日常業務に追われるなか学会発表の準備は大変ではありますが、ぜひまだ学会発表をされたことがない先生には、チャレンジしていただきたいと思います。



## 日本糖尿病療養指導士の資格を得たきっかけと心境

兵庫中央病院 松尾 世為子

私は糖尿病内科の無い施設から当院(兵庫中央病院)へ異動して来ました。当初は糖尿病内服薬・注射薬の種類が多さに取り間違えのないように調剤するのが精一杯でした。慣れない環境の中で覚えるべき事が多すぎて、採用されている糖尿病薬の知識がなかなか頭に入っていない状態でした。

それから一年が経ち、私は糖尿病教室で薬の講義をすることになりました。薬学生時代、大学の講義が非常に理解し辛かった経験から病棟での服薬指導のように平易な言葉と、ご年配の方々に伝わる話し方に力を入れて準備しました。おかげさまで好評をいただきましたが、普段の業務ではまだそれほど糖尿病患者と接する機会はありませんでした。しかしその頃から日本糖尿病療養指導士の資格を持つ先輩薬剤師の先生を通じて受験をしないかというお誘いを受けるようになりました。

暫くして担当病棟が療養病棟から慢性期病棟に変わり、服薬や自己管理について看護師と意見が食い違う患者への服薬指導をする機会も増えてきました。私は薬剤師を志した時期が遅かったので服薬コンプライアンスの悪い患者の考え方にも共感でき、どうしたら双方が納得できる服薬や管理ができるだろうかと考えながら病棟と連携して指導や提案をしていました。

そしてようやく当院での糖尿病療養指導業務従事年数及び時間が日本糖尿病療養指導士の受験資格を満たし、他職種からも「薬剤師ではこの人が受験できる」という目で見られるようになりました。この頃、当院では糖尿病センターを立ち上げることになったため、試験勉強でもっといろんな知識を身に着けることができるかもしれないと思い、受験することにしました。

糖尿病療養指導士の初回受験者には e-ラーニングの受講、「糖尿病療養指導自験例の記録」10 症例、CBT 方式の客観試験120問が課せられます。症例は指定のフォーマットに沿ってこれまでの服薬指導及び他職種と連携した内容を書きました。模範例とはほど遠いものでしたが自分が取り組んできた事が認められたのか、自験例に合格できました。CBT 対策は市販の問題集を、試験の1~2 か月前から休日を利用して解きました。運動療法、食事療法など他職種が専門的に学んできた分野からも出題される中、この時の試験は SGLT-2 阻害薬に関する問題が多かったこともあり無事合格することができました。

合格してからは担当病棟が糖尿病教育入院を扱う病棟へ変更になりました。ここでは糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師が多く、週1回のカンファレンスでは様々な専門用語が飛び交うため、より多岐にわたっての勉強が必要であることを痛感しています。また、教育入院される患者の年齢層は広いですが、働き盛りで独自のスタイルを持つ方が多いので、患者の生

活スタイルに寄り添いながら正しい服薬・管理を指導することに試行錯誤しています。

業務は多忙ですが、指導が成功した時は嬉しいですし、糖尿病に関わる他職種の方々と少しずつ打ち解けてお話できるようにもなってきました。おかげさまで、仕事で落ち込んだ時も頑張ろうと思える原動力になっています。

日々の業務がなかなか上手く出来なくても、こうして一生懸命取り組み続けていたらその先にある資格を得ることができ、そこからさらに仕事内容や職場の人間関係の幅が広がっていくものなんだなあと今、つくづく感じています。

## 趣味のページ

大阪医療センター 檜本 佳代

近畿中央呼吸器センターの多方先生より引き継ぎました、大阪医療センターの檜本です。私が1年目で大阪医療センターに配属となった年に実務実習生として来てくれたのが、多方先生でした。私自身も1年目で業務に慣れない中、一緒に業務をこなしていく中で仲良くなりました。実習期間が終わってからも仲良くさせてもらっていて、一緒に台湾へ行ったことも懐かしいです。

さて、私の趣味は、2年前から始めた登山です。登山というと、富士山など標高の高い山に登ることを想像される方が多いかと思いますが、私は日帰りで手軽に行ける低山によく登ります。身体を動かして汗をかくこと、なによりも山頂で食べるごはんは普段より何倍も美味しく感じるすることができます。去年のリフレッシュ休暇では、学生の頃から憧れていた燕岳に登ってきました。燕岳では日本にいることを忘れるような綺麗な景色を見ることができ、山頂にある山小屋でのごはんも最高に美味しかったです。その山小屋ではなんとカフェメニューもあり、標高 2700m で食べるケーキは非日常的で格別でした。これから夏山シーズンに入るので、また今年も登山に行けたらいいなと思っています。登山をされる先生や、登山に興味がある方がいらっしゃいましたら、ぜひともお話をさせていただいたら嬉しいです！



また、最近は登山と並行してサイクリングも始めました。

なかなかお値段はしましたが、今まで乗っていた自転車(ママチャリ)とはスピードが違い、いろいろな部品を自分でカスタマイズできます。お気に入りの 1 台にしてうちにちょっとした距離でも自転車に乗ることが楽しみになりました。まだまだ乗り始めたばかりで、これからたくさん乗っていきたいと思っていますので、ロードバイクやマウンテンバイクに詳しい先生がいらっしゃいましたらぜひ色々教えていただきたいです。



私の趣味についてたくさん書かせていただきありがとうございました。

ほかにもおすすめの趣味があれば、ぜひお会いした際にいっしょにお話できることを楽しみにしています。

次は、入職前に大阪医療センターで実習生として来てくれた、大阪南医療センターの鈴木先生にお願いしたいと思います。

## 編集後記

- ◆夏の暑さが本番となり、猛暑となる日も続いておりますが、皆様体調を崩されていませんでしょうか。水分補給などこまめに行い、熱中症対策をしっかりと行っていきましょう。
- ◆新型コロナウイルス感染が再拡大しております。皆様のご施設でも対応に追われることが増えてきているかと思いますが、どうかご自愛の上お過ごしください。
- ◆先日、子供と一緒に川遊びに出かけました。魚を探して大はしゃぎ、久しぶりに童心を取り戻した気持ちになりました。まだまだ暑い日が続きますが、夏を満喫していきたいと思います。
- ◆最後に、今回お忙しい中、ご寄稿いただいた先生方ありがとうございました。今号も充実した内容となっています。どうぞ最後までご熟読ください。

(Y.S.)

近畿国立病院薬剤師会会誌	第七十九号 令和六年八月発行
発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局 (独立行政法人国立病院機構神戸医療センター薬剤部内)	神戸市須磨区西落合 3-1-1
発行人 会長 本田 富得(神戸医療)	
編集 広報担当理事 中野 一也(循環器病研究)	
広報委員 佐々木 祐太(大阪南医療)	
	野田 拓誠(大阪医療)
	正木 美有(循環器病研究)